



ココロさんの ひとごと

2019年 10月 No.9

「人生というものは、誰しも失敗して成長して行くもんなのだ」

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、この言葉は、7月に逝去されたジャニー喜多川さんの言葉です。間違いを犯した若いタレントが、事務所を退所しようとした時、ジャニーさんはこうってお説教をし、仕事を続けさせてくれたのだそうです。

「失敗して成長する」という言葉はシンプルですが、そこに込められた意味は深いと思います。失敗しても、ひるんでいては成長できません。事実を認め、向き合うことが必要です。勇気を持って次の一歩を踏み出し、新たな歩みができて初めて「成長した」と言えるのだと思います。

そして、この言葉にあるように、人生は、失敗しながらつまずきながら歩むものであって、そこで終わるわけではないのです。

カウンセラーとして、不登校状態の生徒さんや保護者さんの話を聴くと、登校するパワーが出ないほどエネルギーを消耗した時は、心がとても敏感になっています。ですから、つまずくことを恐れやすくなりますし、場合によっては、今はどうしたらよいかわからない状態だと思っている人もいるかもしれません。しかし、個人によって時間は異なりますが、少しずつエネルギーは回復していきます。つらかった経験の先に、新たな歩みが少しずつ始まっていきます。そして、チャレンジすることに対して、不安ばかりでなく「やってみよう」という前向きな気持ちが、だんだんとわいてくるようになってきます。

この時に、私たち大人はジャニーさんの姿勢に学ぶべきではないでしょうか。「誰しも失敗して成長して行く」という姿勢です。つまずいても再チャレンジし、成長する子どもの姿を見守り支えることは、大変なエネルギーを要します。しかし、私たちもそれぞれ「つまずきながら成長した」という体験があり、つらいことがあっても、「その先」があるということを経験しています。だからこそ、私たちが、つらい時期の先の成長を思い描いて見守ること。それは、新たな一歩を踏み出すとする子どもたちにとって、きっと心強い支えになると思います。

